

三宅島の現状（その４７）

平成15年1月25日

現地災害対策本部(三宅島)

【気象及び火山活動状況】 1月10日～1月25日

1月10日～14日は弱い冬型の気圧配置と移動性高気圧に覆われたため、晴れの天気が続きましたが、11日に低気圧が八丈島の南を通過した事により雷を伴い坪田で15.5mmの日降水量を観測しました。15日～18日は強い冬型の気圧配置と移動性高気圧に覆われたため、概ね晴れの天気でしたが寒気の影響により15日には島内各地で一時的にみぞれが降りました。19日～21日は低気圧や気圧の谷の影響で雲が多く雨の降りやすい天気となり20日には伊豆で23.0mmの日降水量を観測しました。22日～25日の期間は前半、気圧の谷の接近により雲が多く23日には発達した低気圧が伊豆諸島北部を通過し、坪田で1時間に22.5mmの雨を観測しました。その後、冬型の気圧配置となり晴れの天気が続きました。

火山の活動状況は、この期間、体を感じる地震は観測されませんでした。噴煙の高さは、15日には火口上500mの白色の噴煙が上がっているのが観測されました。火山ガス(SO₂)の放出量調査は22日に警視庁の協力により実施し、約4,000～5,000ト/日を観測しました。

島内のガス濃度(SO₂)は、13日村役場で3.0ppm、17日村役場で2.9ppm、18日村役場で2.8ppm、20日三池で2.2ppmを観測しました(東京都環境局観測)。

【火山噴火予知連絡会統一見解】

1月21日第94回予知連絡会が開催、統一見解が発表されました。概略「火口からの二酸化硫黄の放出量は、昨年夏頃の1日当たり4千～1万数千トから3千～1万ト程度、山麓での1時間当たり濃度も、最盛期は10ppmを超えていたが、最近数ヶ月は最大で数ppmと量・濃度とも減少している。火口の温度や島内地殻変動、火山ガスの組成、マグマ中のガス成分濃度や脱ガスの条件、火山性地震の活動など、三宅島の火山活動はガスの放出も含めて、全体としてゆっくりと低下していると考えられる」との内容でした。

【定期船による一時帰宅事業の実績】

1月6日から、2年4ヶ月ぶりに定期船「東京～三宅島寄港八丈島便」が週3便、防災関係者を対象に運航を再開しました。また、15日(水)竹芝発便から、島民(坪田地区)の一時帰宅事業が再開されました。避難後、一般島民の定期船乗船は今回が初めてです。今後、水・金曜日の毎週2回帰宅事業が予定されています。

年月日	H15. 1. 16	H15. 1. 18	H15. 1. 23	H15. 1. 25
場 所	坪田地区	阿古地区	神着地区	伊豆・伊ヶ谷地区
人 数	44名	47名	中止	中止

【島内復旧作業状況】

島内の滞在者が700名規模になり、本格的な復旧作業の体制が戻ってきました。16日は、一部を除き殆どの作業現場で工事を中止し、海等で供養を行い工事の安全を祈願しました。伊豆地区で建設中の島民用避難施設は、貨物船で建設資材が着々と搬入され、急ピッチで工事が進められています。

【就労情報】

村役場では求人情報を下記のホームページに掲載するとともに、住民情報ネットワーク(島民連絡会)42ヶ所の連絡所にも送付しております。仕事を探している方はもよりの連絡所でご覧下さい。また、就職についての相談は三宅村村民課避難対策係(代表03-5321-1111内線45-651)にご連絡ください。なお、直近の情報はホームページ「三宅島を離れた村民のみなさまへ」をご覧ください。

(アドレス <http://www.miyakemura.com>)

(問い合わせ先) 三宅支庁総務課行政係 電話：03-5320-7854

火山活動に関する説明会開催のお知らせ

三宅村では気象庁にお願いして、島民を対象に、1月21日に発表された「三宅島の火山活動に関する火山噴火予知連絡会統一見解」と、今後の火山活動の見通しについての分かりやすい解説を、下記のように説明していただくことになりました。

皆様の奮っての参加をお待ちしております。

記

- 1 日時 平成15年2月22日(土) 13:30~15:30
- 2 場所 都庁第2庁舎 1階 ホール
- 3 内容

(1) 三宅島の火山活動の概要

山本 雅博 気象庁地震火山部火山課長

山里 平 気象庁地震火山部火山課長補佐

(2) 「三宅島の火山活動に関する火山噴火予知連絡会統一見解」

の解説と今後の火山活動の見通し

渡辺 秀文 火山噴火予知連絡会伊豆部会長

- 4 その他 島民証明書や保険証など、三宅島の住所がわかるものをお持ちください。

平成15年1月21日
気 象 庁

三宅島の火山活動に関する火山噴火予知連絡会統一見解

三宅島では、依然として山頂火口から二酸化硫黄を含む火山ガスが放出され続けていますが、二酸化硫黄の放出量は一日あたり3千から1万トン程度となり、その量は減少してきています。上空からの火山の温度観測では、火口の温度は若干の低下傾向が見えます。島内の地殻変動は、収縮率が小さくなり、静穏期に見られるわずかな膨張に転じました。

火山ガスは白色の噴煙として放出されており、その高さや勢いは長期的に低下傾向にあります。二酸化硫黄の放出量も、昨年夏頃は1日あたり4千トンから1万数千トン程度でしたが、最近数カ月では、1日あたり3千から1万トン程度となっています。山麓での二酸化硫黄濃度（1時間値）も、最盛期は10 ppm を超す値が観測されていましたが、最近数カ月は最大で数 ppm となっています。

火山ガスの組成に顕著な変化は認められておらず、マグマ中のガス成分濃度や脱ガスの条件等に大きな変化はないものと考えられます。

上空からの火口の温度観測では、火口の温度は若干の低下傾向が見えます。全磁力観測では、山頂直下の温度低下を示唆する帯磁傾向が引き続き観測されています。

火山性地震の活動に大きな変化はありませんが、連続的に発生している火山性微動の振幅は小さくなっています。

島内の地殻変動は、収縮率が徐々に小さくなり、2002年夏頃からは、わずかな膨張に転じました。過去にも三宅島では静穏な時期にわずかな膨張が継続していることが知られており、この地殻変動変化は、火山ガスの放出による体積減少の割合が小さくなってきたことを示すと解釈できます。

以上の観測データから、三宅島の火山活動は、火山ガスの放出を含めて、全体としてゆっくりと低下しているものと考えられます。

今後とも、少量の降灰をもたらす小規模な噴火が発生する可能性はありますが、火山ガスの放出量は、大局的には低下を続けていくものと考えられます。

現在でも局所的に高い二酸化硫黄濃度が観測されることもありますので、風下にあたる地区では引き続き火山ガスに対する警戒が必要です。

また雨による泥流には引き続き注意が必要です。

三宅村噴火災害生活支援資金貸付について

三宅村では、平成12年噴火災害の被災者に対して、生活の安定を図ることを目的として生活資金の貸し付けを実施しています。
まだこの制度を利用していない方で希望される方は、2月28日までに申請して下さい。

(貸付の資格)

- ・平成12年6月26日現在、本村に住所を有していた者。
- ・世帯主である者。

(貸付金額)

- ・30万円以内。

(必要添付書類)

- ・申請者の印鑑登録証明書。
- ・連帯保証人の印鑑登録証明書。
- ・収入印紙400円(30万円の場合)。

(注意事項)

- ・資金の貸し付けは、1回のみです。
- ・資金の借受者は、連帯保証人になれません。
- ・保証人が島外者の場合、その方の所得証明が必要です。

平成15年1月29日

詳細は、三宅村新宿総合事務所

村民課避難対策係 担当 彦坂、若松

電話03-5320-7829

平成15年2月 1日

遊漁船業制度改正説明会のご案内

平成15年4月1日より「遊漁船業の適正化に関する法律」が一部改正され、現在の届出制が5年ごとの登録制に改められることや損害賠償保険の加入が義務づけられるなど、遊漁船業に対する制度が大きく変わります。

つきましては、4月からの新しい登録制度について、主な改正点及び手続き等についての説明会を開催しますので万障繰り合わせのうえ出席していただくようお願いします。

1 開催日時及び場所

- | |
|---|
| 第1回： 平成15年2月4日（火）18：00～
東京都漁業協同組合連合会 5階会議室
港区港南4-7-8 電話：03（3458）4161 |
| 第2回： 平成15年2月17日（月）18：00～
大田区羽田特別出張所 3階会議室
大田区羽田1-18-14 電話：03（3742）1411 |
| 第3回： 平成15年2月18日（火）18：00～
東京都漁業協同組合連合会 5階会議室 |
| 第4回： 平成15年2月24日（月）18：00～
グリーンパレス（江戸川区民センター）
江戸川区松島1-38-1 電話：03（3653）5151 |
| 第5回： 平成15年2月25日（火）18：00～
東京都漁業協同組合連合会 5階会議室 |

2 資料について

受付にて資料をお配りしております。また、都合により参加できない方のために資料を三宅支庁、三宅村役場、三宅島漁協の3箇所に置いておりますのでお問い合わせ下さい。

4 説明会の開催についてのお問い合わせ

三宅支庁産業課水産係 永 阪、山 根
代表電話：03（5321）1111 内線45-536
東京都産業労働局農林水産部水産課 伊 藤、小 野
代表電話：03（5321）1111 内線37-432、37-436

平成15年2月1日
三宅村復興調整室
農林水産業整備担当課

農業生産者 各位

「三宅島内農業生産ほ場の土壌診断」の実施について

厳寒の候、皆さま方にはご健康にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

また、帰島と帰島後の円滑な生活や営農再建のために、公私にわたって種々ご計画かとお察し申し上げます。そこで村では農業生産者に対するその一助とするため、東京都中央農業改良普及センターのご協力をいただき、現時点における「三宅島内農業生産ほ場（畑）の土壌診断」を下記のように実施していただくことになりました。

畑の耕土などの様子を知るのにはいい機会だと思いますので、ご希望される方は、別紙の「土壌診断申込み書」により申し込んでください。

記

【実施期間】 平成15年4月～平成16年3月

【実施対象】 三宅島内の1筆1アール（1畝）以上の農業生産ほ場（畑）で、帰島後に出来るだけ早く耕作再開を希望する場所。（申込者の所有地あるいは借用地は問いません。）

【実施内容】 申込みの受付後に、地区別整理と個別のほ場確認を行い、平成15年4月以降、東京都中央農業改良普及センター三宅支所職員（改良普及員）が三宅島出張時に早く申し込まれた方を出来るだけ優先にして、地区単位で各ほ場において調査を行なっていきます。

また、調査の項目は、① 降灰状況、② 雑木や雑草などの繁茂状況、③ 土壌分析（酸度、電気伝導度、など）です。

なお、この調査結果を考察して、この調査時点における土壌改良のための処方箋を申込者に対して通知します。

【申込み方法】

- (1) 申込み期間は、平成15年2月1日から同年4月30日まで。
- (2) 別途の申込み書に必要事項を記入し、郵送またはファックスで下記（別記1）の『三宅村新宿総合事務所 農林水産業整備担当課』まで、ご送付ください。
- (3) 帰島後に農業生産の再開を希望する方であれば、どなたでも申込みが出来ます。
- (4) 出来るだけ多くの方のほ場（畑）について調査を行ないたいと考えますので、今回に限り申込者は一世帯一人の耕作者とし、一人の申込者が5筆までとさせていただきます。
- (5) 申込みおよび診断結果における個人情報、申込者の了解がない限り第三者への公開はありません。

※ 別記-1 『申込み受け先』

■ 三宅村新宿総合事務所 農林水産業整備担当課

〒163-8001

東京都新宿区西新宿2-8-1 東京都庁第一庁舎29階

Tel 03-5320-7828

Fax 03-5388-1602

別記-2 『お問合せ先』

■ 三宅村新宿総合事務所 農林水産業整備担当課

〒163-8001

東京都新宿区西新宿2-8-1 東京都庁第一庁舎29階

Tel 03-5320-7828

Fax 03-5388-1602

■ 東京都中央農業改良普及センター三宅支所

〒187-0002

東京都小平市花小金井1-6-20 東京都小平合同庁舎2階

Tel 0424-65-9882

Fax 0424-64-8335

土壌診断申し込み書

三宅村農林水産業整備担当課 御中

申込み日：平成15年 月 日

申込者氏名		申込者の住所 または連絡先 (避難先)	住所 : 〒 —			
			電 話		ファックス	
			携帯電話		メール	
申込者の 世帯主指名		申込者の住所 (三宅島)				

診断を希望する畑

	地番または所在地 (場所の特徴など特定できる目印があれば)	栽培作物		畑の所有者 (借地の場合は、所有者の氏名)
		避難前	帰島後予定	
1	三宅村 番地 目印:			・自己 ・借地 ()
2	三宅村 番地 目印:			・自己 ・借地 ()
3	三宅村 番地 目印:			・自己 ・借地 ()
4	三宅村 番地 目印:			・自己 ・借地 ()
5	三宅村 番地 目印:			・自己 ・借地 ()

※ 土壌調査のほかに、普及センターなどに技術や営農に係わることで、調査などで依頼したいことがありましたらお書きください。

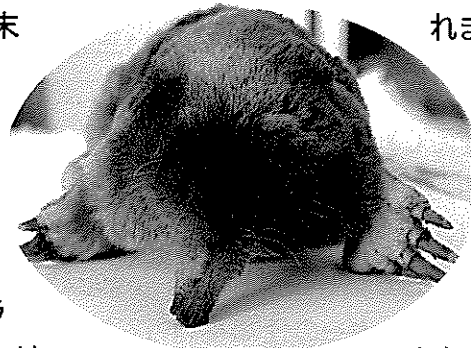
()

モグラ君との出会い

1月6日、年が明けた仕事始めの日、モグラ君が凍死しているのを畑で発見しました。

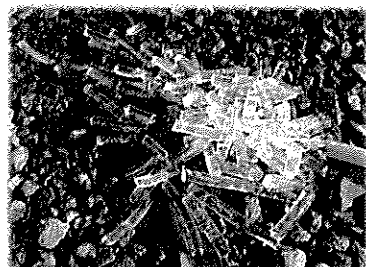
農場に設置した温度計が年末年始の休み中に記録した最低気温は -5.9℃、バケツの水は厚さ1.4cmの氷に覆われ、水道管も破裂する有り様でした。

それにしても、普通ならモグラは凍死するような動物ではないはず。何かのアクシデントにあったのでしょうか。



モグラは三宅島では見られない動物ですが、農場ではモグラの往来の痕跡があちこちに見られます。

そのため、場員の多くが一度はその姿を見たいと思っていました。残念ながら初めて見るモグラ君は冷たい姿でしたが、小さな身体にふさふさとした毛、どこにあるかわからない目など、ペットにしたくなるくらい可愛い姿でした。花壇や芝生などを荒らすので厄介者扱いされる動物ですが、今回はちょっと気の毒になりました。



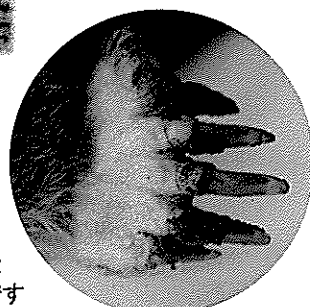
水道のホースからはご覧のとおり氷の塊が



小宮公園の芝生もモグラ君の散歩道のように...



意外な愛敬がありませんか



顔に似合わず立派な前足です

来場者紹介

【見学等】

- ・加藤通世さん(国立市在住:伊ヶ谷)
- ・石井敦子さん(国立市在住:伊ヶ谷)
- ・阿古駐在所警察官 西島孝さん
- ・伊豆駐在所警察官 田崎良さん
- ・三宅島警察署警務係 相馬鉄也さん
- ・元三宅児童・生徒支援センター 奥住仁志さん

- ・神奈川県立中央農業高校 松山先生と生徒の皆さん
- ・日本大学大学院生 杉山愛さん

【取材等】

- ・TV朝日ディレクター 西山亮さん

(順不同)

「農場へ来るには」

JR八王子駅北口『12番』乗り場、または京王八王子駅『4番』乗り場より、『稲荷坂下』バス停で下車徒歩10分。「ひよどり山中学校」のすぐそばです。

※両乗り場とも「純心女子学園」行きは2系統ありますので、「稲荷坂下」を通るか乗車の際にお尋ねください。

三宅島「げんき農場」だよりのバックナンバーは、三宅村のホームページ「村民の広場」の「げんき農場情報」でもご覧になることが出来ます。こちらでは掲載写真がカラーでご覧いただけますので、インターネットをご利用できる方は是非ご覧下さい。

「村民の広場」アドレス http://www.miyakejima.gr.jp/info_miyake/

三宅島「げんき農場」だよりの

発行元 三宅島「げんき農場」
所在地 八王子市宇津木町236-1
Tel&Fax: 0426 - 27 - 4355
e-mail: genki-farm@nifty.com

新春、御心に会えた幸せ

年明け早々、「げんき農場」にとってこの上ない喜びとなるニュースをマスコミ各社が伝えてくれました。宮内庁が新年にあたり天皇皇后両陛下の歌を発表しましたが、皇后陛下が詠んだ三首の中に、げんき農場を詠った歌があったのです。

〈八王子市に「元気農場」を訪ふ〉

これの地に明日葉の苗そだてつつ
三宅の土を思ひてあらむ

皇后様のお心の優しさに心打たれましたが、この歌を読むほどに、三宅島民への心配りを「げんき農場」になぞらえて詠ったお気持ちが伝わってきます。この感激を糧に、平成15年と言う年が飛躍の年となることを信じつつ、気持ちを新たにしている「げんき農場」です。

げんき農場の全景写真

「げんき農場」に隣接する都立小宮公園には日頃からお世話になっていますが、その管理所を訪れたときのこと。お邪魔してすぐに大きな写真が目に入りました。公園全体を写したその航空写真には「げんき農場」の敷地も写っていました。掲載許可を頂きましたので、ご覧にしたいと思います。



写真中央に広がる森が都立小宮公園、赤い線で囲った部分が「げんき農場」の敷地です。農場の左上には日本道路公団と中央道八王子インターが、左下にはひよどり山中学校が見えます。

撮影時期は「平成3年秋」とのことで、「げんき農場」が出来る12年ほど前の様子です。この場所がのちに「げんき農場」となり、三宅島島民を支える大きな拠点になることを誰が想像したのでしょうか。

サトイモ食味コンテスト集計結果

げんき農場ではサトイモの品種比較のため、圃場の一角に各島から持ち寄った種芋を育てました。それらを収穫し、昨年12月10日、餅つき会の開催に合わせて、食味比較のコンテストを行いました。



調理方法等、全て同じ条件のもと、参加した場員には品種を伏せて、それぞれ食べ比べてもらいました。その結果がまとまりましたので発表します。但し、紙面スペースの都合上、設問の「ホクホク感」と「甘み」の項目は省略しました。また、グラフの数字は、各品種それぞれに対して『良い』と評価した人数の割合です。

品種と評価	程良い歯ごたえがある	程良い粘り感がある	香りが良い	総合してとても美味しい
八丈島赤芽	57.1%	45.5%	9.4%	9.4%
八丈島南京	44.7%	38.2%	31.4%	8.6%
八丈島たごべえ	50.0%	34.3%	18.2%	11.8%
大島赤芽	62.9%	31.4%	8.3%	17.1%
新島赤芽	51.4%	23.5%	11.8%	22.9%
えび芋	78.6%	33.3%	10.5%	10.5%
みず芋	60.9%	42.9%	16.7%	14.3%
唐芋	63.6%	26.9%	20.7%	22.7%
新島早生	38.1%	30.0%	4.7%	10.0%
三宅島赤芽	72.2%	57.1%	32.4%	45.7%
三宅島赤芽(親芋)	65.0%	26.1%	22.7%	19.0%

特に印象的な結果は、「総合評価」の「とても美味しい」の評価結果です。三宅島の赤芽芋の評価が飛び抜けて良いのは、日頃馴染んだ味だったせいもあるかもしれませんが、やはりこの三宅島の味は残していかなくてはならないもの、との思いを新たにした結果でした。

切替畑(焼畑)農法の意義

三宅島では5年~8年使用し古くなった畑にハンノキ(オオバヤシャブシ)を植え、更にその間にマグサを植えて12年~15年休ませます。その間に土地は肥沃になり、再びそれを開墾した畑がアラコ(新畑)となります。このように、利用する畑、休ませる畑をローテーションさせながら作物を作る方法を「切替畑農法」と呼びます。

<アラコの特性>

- 12~15年間の休耕で落葉が繰り返され、地表面に腐葉土が堆積する。
- ハンノキの植生で、根粒菌が活動し、空中窒素を吸収し、土壌中に固定蓄積する。
- 畑作雑草が消滅。
- 病原菌や害虫等が少なくなっている。
- 切替えハンノキ、アジサイ、アズマネザサ等、枝葉を細かく切り広げて乾燥し、火をつけて焼くこと(焼畑)で、灰分が供給され、酸性土壌が中和される。

長い年月を費やして作られる貴重なアラコに「三宅赤芽芋」は植えられます。美味しいのは当然かもしれませんが、三宅島を代表する作物の一つとして、げんき農場でその種苗資源を守っていますが、島と同様な切替畑を行なうのは難しいのが現状です。

場員のページ

場員の声



山内 鶴助
(八王子市別所在住: 坪田)

これからだ!

げんき農場で働きながら帰島の日を待っています。自宅はガスの被害が一番多い三池地区にあります。一時帰島で帰ったとき、コールタールを屋根に塗ってきました。噴火の1年前にトタンを張り替えてあったので、雨漏りせず助かりました。島では漁船に乗り天草(テングサ)を採ったり、冬は魚を釣って生活していました。去年の台風で船が大きな被害を受けてしまい、どうして良いものか夫婦で話し合っていますがまだ結論は出ません。その家内はシルバー人材センターの仕事に行っており、私も可能な限り「げんき農場」で働きたいと思っています。4人の子供を育て、それぞれが独立そして結婚し、気が付けば孫が6人。それなりに順調な人生と思っています。農場の作業は多くの仲間と楽しく仕事ができ、島での天草採りをしているだけでは経験できない貴重な体験をさせてもらっています。

明日葉の強さ

先日、一時帰島した折に我が家のアシタバ畑を見ることが出来ました。避難から3年で畑はヤシャブシなどが生い茂り荒れ放題でした。そんな中、アシタバは細々ながら生きていて、新芽も伸びていました。噴火が始まったのはちょうど梅雨時で、毎日がアシタバの収穫に追われる、一年でも一番忙しい時期でした。生産者の誰もが楽しく、豊かでした。



寺沢 峰
(八王子市南大沢在住: 坪田)

「げんき農場」での仕事は色々ありますが、アシタバ畑に入るのが何よりも楽しく夢があります。今、げんき農場のアシタバ畑は寒さから株を守るために、落ち葉を厚くかぶせられ姿を見ることは出来ません。でも落ち葉の下では新芽が膨らみ、春の訪れを待っています。昨年3月、天皇皇后両陛下の御行幸啓がありました。皇后様は、私たちの帰島への思いを「御歌」に添えて下さいました。感激と感謝の思いで新年を迎えました。

頑張っています



菅本 弥恵子
(八王子市別所在住: 神着)

昨年の4月1日から農場で働いていますが、島でも家庭菜園程度の野菜作りは経験していましたので、何とか続けられています。げんき農場では色々なことを経験し勉強しました。特に里芋作りについては、植付けから除草、消毒、追肥、土寄せ、収穫、貯蔵までひととおり経験させてもらいました。

子供2人が大学に在学中で何かと出費の多い年頃ですが、夫が島で復旧工事に従事しており、経済的には助かっています。島に残してある自宅には私自身は避難以来戻っていないのですが、夫の話では特に被害は無いとのこと、安心しています。

ここげんき農場は仲間達が多く、みんなに助けられながら、楽しく元気に帰島の日まで頑張りたいと思っています。